

第6回総合部会(12/16)及び第3回総合計画審議会(12/25)における意見への対応

参考資料 2

【第1部 基本構想/第2章 いばらきの目指す姿】

目標-政策-施策	関連頁	主な意見	対応	区分	
第1項 基本理念	P. 14	・文化面でもイノベーションをおこしていくことがわかるようにしてほしい。	・ご指摘を踏まえ、19ページのイノベーション大県いばらきの将来像において、「…医療や福祉、教育や文化、環境など様々な分野において、…イノベーションが創出」に表現を修正しました。	総合部会	
第3項 目標と将来像	P. 19		・また、20ページのイノベーション大県の目指す将来の姿の「① 安全・安心で質の高い暮らしの創造」において、「伝統文化の伝承」の記載を追加しました。	総合部会	
第1項 基本理念	P. 14	・イノベーションの注釈を入れて、誰にでもわかるようにしては。	・ご指摘も踏まえ、14ページの基本理念の説明の2つ目の○において、「生活や産業など様々な分野において、社会的意義のある新たな価値を生み出すイノベーション」に表現を修正しました。	総合部会	
		・イノベーションが前面に出ると違和感がある。科学技術の印象が強く、生活面のイノベーションがわからない。誰にでもわかる言葉を使うべき。		総合部会	
		・科学技術に特化したイノベーションではないということを、しっかりと語れば良いのではないかと。		総合部会	
		・イノベーションに「科学技術」、「生活」、「文化」などの頭文字を付ければわかりやすくなるのではないかと。		総合部会	
		・イノベーションという言葉は、広い意味で使っているものであり、茨城県から発信する新しい言葉として良い。		総合部会	
第3項 目標と将来像	P. 19	・茨城の良い資源と人材を活用して発展するために、イノベーションが必要。イノベーション本来の意味での使われ方であり、攻めの姿勢が良い。	・なお、ご指摘のイノベーションの定義については、19ページの下部に「『イノベーション』とは、技術の発明に限らず、社会的意義のある新たな価値を創造することを指します」と記載しております。	総合部会	
第1項 基本理念	P. 14	・イノベーション大県の将来像は、基本理念の説明と重複しているので必要ないのではないかと。	・ご指摘を踏まえ、基本理念を「生活や産業など様々な分野において社会的意義のある新たな価値を生み出すイノベーションの創出」とし、イノベーション大県の将来像をイノベーションによる「安全・安心で質の高い暮らし」、「未来を支え切り拓く産業」と整理しました。	総合部会	
第3項 目標と将来像	P. 19				・なお、3つの目標が基本理念「みんなで創る 人が輝く元気で住みよい いばらき」の目指す姿を示しているのに対して、イノベーション大県の将来像は、基本理念の副題「生活と産業の未来を拓く新たな価値の創造」についての将来像を示しています。
第3項 目標と将来像	P. 19	・基本理念や目標が今までと同じなので、違いを出すため「活力あるいばらき」を「元気ないばらき」に改めてはどうか。	・「元気」の場合は、健康面の「元気」の印象が強いので、ここでは、経済面や産業面の「元気」を含めていることから、原案どおり「活力あるいばらき」としました。	総合部会	
		・基本方向としては間違っていない。基盤強化のイノベーションと未来へのベクトルのイノベーションを、きちんと整理して表現する必要がある。	・ご指摘も踏まえ、「安全・安心で質の高い暮らしの創造」と「未来を支え切り拓く産業の創造」に整理しました。	総合部会	
		・「大県」という表現は気になる。大県は目指すもので、名乗るものではない。	・目標と将来像として目指していくものであるため、原案どおりとしました。	総合部会	
		・日本の発展に貢献するために本計画を作るのか。茨城に住む人々が、安全で、幸せで、輝くいばらきをつくるための計画ではないかと。	・ご指摘も踏まえ、「生活と産業の未来を拓く『イノベーション大県いばらき』」に修正しました。	総合部会	
		・プラン名はとても良いので、将来像にも使ってはどうか。		・また、「日本や世界の発展に貢献」の前に「郷土いばらきの飛躍」を追加し、まずは、茨城の発展を図る姿勢を示すこととしました。	総合部会
		・「日本の発展」ではなく、「未来を切り拓く」ではどうか。		総合部会	
		イノベーション大県いばらきについて		・イノベーションが本当に必要な分野は、地域の安全・強靱化、文化を守ること。3つの目標の絡む支持基盤。きちんと説明すれば良いのでは。	・ご指摘を踏まえ、イノベーション大県が目指す将来の姿の「① 安全・安心で質の高い暮らしの創造」に、「伝統文化の伝承」、「新たな支え合いの仕組み」、「災害の予知や被害の最小化」などの記載を追加しました。
	P. 20	・強靱化、伝統工芸、コミュニティの消失を防ぐためにもイノベーションが必要だがほとんど書かれていない。		総合部会	
第4項-第2節 経済の展望	P. 25	・経済の展望について「～見込まれます。」ではなく、達成するために、きちんと計画をやっていくという姿勢が必要。	・ご指摘を踏まえ、23ページに人口・経済の展望についての前文を加え、厳しい社会情勢の中でも、安定した経済成長を目指す旨の記載を追加しました。	総合部会	

【第1部 基本構想／第3章 計画推進の基本姿勢】

区分	該当頁	主な意見	対応	区分
計画推進の基本姿勢について	P. 26	・今回の計画の特徴である「対流」・「交流」・「連携」のニュアンスが入った方がよいのではないかと。	・ご指摘を踏まえ、「2 地域資源の活用・発掘と情報発信」において、「地域間の人・モノ・情報の対流を引き起こし、新たな価値を生み出していくため、地域の個性を磨き上げるとともに、地域内外との連携を促進します」の記載を追加しました。	総合部会

【第2部 基本計画／第1章 政策展開の基本方向】

目標-政策-施策	関連頁	主な意見	対応	区分
目標1-政策3-① 目標2-政策4-④ 目標3-政策2-③	P. 46 P. 90 P. 104	・単なる労働力でなくイノベーションのプレイヤーとしての外国人をどうやって増やしていくのが重要であり、もっと力を入れてはいかかか。	・ご指摘のとおり、外国人にも暮らしやすい環境の整備は、人口減少社会において大変重要な視点であることから、「人が輝く」、「活力ある」、「住みよい」それぞれに関連の取組を位置付けております。	審議会
目標1-政策3-④	P. 49	・高齢者人口が増える中で、いかに高齢者の知識・経験を活用して、高齢者が輝くような社会にしていくのが重要。	・ご指摘を踏まえ、施策「高齢者の知識・経験・技能を活かす社会づくり」の高齢者の豊富な知識・技能・ノウハウの活用に関する記述の充実を図るとともに、人材バンクである「元気シニアバンク」の内容を追加しました。	審議会
目標2-政策2-②	P. 71	・「未来を拓く創造的産業の育成」は、基本理念の副題の「未来を切り拓く産業」 [*] に似ている。表現を変えてはどうか。 (※) 総合部会時点の基本理念の副題	・ご指摘を踏まえ、「次代を創る革新的産業の育成」に修正しました。	総合部会
目標2-政策2-⑥	P. 75	・晩婚化・未婚化の解消のためには、若い世代の正規雇用化を図る必要だが、「若年者正規雇用割合」の目標値が現状値と比べて僅かな増加となっている。	・「若年者正規雇用割合」の目標値につきましては、全国的に漸減傾向にあり現状維持も難しい状況にありますが、各種取組を進めることにより、年0.4ポイントの増加を目指すこととしているため、原案どおりとしました。	審議会
目標2-政策4-③	P. 89	・今後は、ITの活用が重要。	・ご指摘のとおり、ITの活用については、大変重要な視点であることから、施策「IT・データの活用による情報交流社会の構築」で取組を整理するとともに、例えば、「人が輝く」では教育におけるICTの活用、「住みよい」では医療におけるICTの活用など、政策分野全般にわたりITを活用する取組を位置付けております。	審議会
目標3-政策1-①	P. 94	・若い人に結婚や子育て支援（事業・制度）に関する情報をもっとしっかり伝えることが大切。	・ご指摘のとおり、結婚・出産・子育てに関する支援に係る取組につきましては、施策「安心して結婚・出産・子育てできる社会づくり」に位置付けているところですが、若い世代の方々に支援制度等を有効に活用していただくことが重要であることから、各種事業の実施に当たりましては、周知方法等を工夫してまいります。	審議会
目標3-政策1-①	P. 94	・出産費用や子どもの医療費など経費的負担が大きいことから、出産を思いとどまる人も多い。他県の事例なども参考に若い人に支持される施策を充実して欲しい。	・ご指摘を踏まえ、引き続き、全国の優良事例や先駆的な取組なども参考にしながら、若い世代の方々に効果的に活用していただける各種制度・事業の企画・予算化に努めてまいります。	審議会
目標3-政策4-①	P. 116	・地球温暖化対策のところに、アダプテーション（適応）という考え方を入れると良いのではないかと。COP21においても、安倍総理が言っていた。ミチゲーション（緩和・軽減）を行うことはもちろん、それでも起きてしまうことへの準備をしておくことが大切。	・ご指摘を踏まえ、本県における気候変動及びその影響について調査を行い、適応策についても計画的に取り組む旨の記載を追加しました。	審議会

【第2部 基本計画／第2章 地域づくりの基本方向】

区分	該当頁	主な意見	対応	区分
3 地域区分	P. 122	・資源などに着目しながら広域間の繋がりをもっと詳しく書いた方がよい。	・ご指摘を踏まえ、「ゾーンを横断する取組」について別途項目を設けるとともに、具体的な事例の対象地域を示す地図を追加しました。	審議会
3 地域区分	P. 122	・筑波山や霞ヶ浦をPRする取組をもっと入れて欲しい。	・県南ゾーンにおいて、筑波山・霞ヶ浦などの自然環境を活かした観光の促進について記載しているとともに、ゾーンを横断する取組の具体的事例においても、筑波山・霞ヶ浦周辺エリアにおけるサイクリング環境の整備について記載しております。なお、事業の実施に当たりましては、引き続きPRの取組等を強化してまいります。	審議会
4 各ゾーンの将来像と主な取組(6) 県西ゾーン	P. 128	・県西地域の記載が弱い。県北・県央・県南は大学があって産学官連携しやすいが、県西、鹿行はみんなで作る仕組みを考えなくてはならない。	・ご指摘を踏まえ、県西ゾーンの「地場産業の振興」において、「工業技術センター繊維工業指導所を拠点とした産学連携による新商品開発等」の記載を追加しました。鹿行ゾーンにつきましても、各種事業の実施に当たりましては、つくば・東海地域と連携した研究開発の促進などに取り組んでまいります。	総合部会

【第3部重点プロジェクト】

区分	関連頁	主な意見	対応	区分
P J の推進について	P. 122	・重点プロジェクトについては実効性が問われるため、5年間のロードマップと予算を示す必要があるのではないか。	・分野を横断する重点プロジェクトは、単独のセクションで実行することは難しいため、基本構想「第3章 計画推進の基本姿勢」の「4 適切な進行管理と行財政改革の推進」に記載のとおり、部局横断的な推進組織を設置するほか、プロジェクトマネージャーとしての担当部局を設定するなど、推進体制をしっかりと整えて推進していくこととしています。 ・また、計画に5年間の事業費を記載することは困難ですが、各プロジェクトに掲げる目的や数値目標の実現に向けて、推進組織において実施事業の効果検証や新規事業の企画立案などのPDCAサイクルをしっかりと進めてまいります。	審議会
P J 1 ストップ少子化・ 移住促進 P J	P. 130	・企業が立地し、若者が集まり、憩いの場を求める高齢者や観光客が増えていく取組を全面に出すことを望むとともに、いばらき大使の方々にアピールしてもらおう広報活動を検討して欲しい。	・社会減対策としての「移住・二地域居住の促進」や「U I J ターンの促進」をはじめ、「若い世代の経済的安定」に繋がる雇用の創出などについては、重点プロジェクト1（ストップ少子化・移住促進プロジェクト）に位置付けているところです。 ・ご指摘のとおり、多くの人が訪れたい、住みたいと思える茨城を実現していくためには、第一に本県の良さを知っていただくことが必要であることから、当該プロジェクトには「情報発信とイメージアップ」の取組も掲げているところです。なお、いばらき大使の方々には、現在も県のPRやイメージアップご尽力いただいているところですので、引き続き、発信力を活かした本県のアピールについてご協力をお願いしてまいります。	審議会
P J 1 ストップ少子化・ 移住促進 P J	P. 130	・主な取組の「若者の経済的安定」は、安定支援としてはどうか。	・国のまち・ひと・しごと創生総合戦略（2015改訂版）の政策パッケージや茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の表現に準じて、原案どおりとしました。	総合部会
P J 3 未来を拓く子ども・ 若者育成 P J	P. 134	・主な取組の「郷土を愛する心の醸成」については、「郷土を愛する心の醸成を図る〇〇〇の推進」としてはどうか。	・取組の内容が、教育から情報発信まで幅広いこと、また、茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略の表現に準じて、原案どおりとしました。	総合部会
P J 7 未来を創る産業イノベーション創出 P J	P. 142	・若干チャレンジングな取組が少ない。新サービスの創出やベンチャー企業の創出についても検討してほしい。	・新サービスの創出については、主な取組「③中小企業の経営革新支援」で新商品・新サービスの開発などの支援を記載しているほか「⑦付加価値の高い産業創出」で「新たな価値の創造を支援」を記載しております。 ・ベンチャー企業の創出については、P J 3の主な取組「⑦新分野を切り拓く起業家の育成」やP J 4の主な取組「②女性のキャリア向上、再チャレンジ支援」などで、起業やベンチャー企業の創出・育成を記載しております。	総合部会
P J 8 攻めのいばらき農業推進 P J	P. 144	・次世代をリードする農産物の新品種などについて、研究・開発の強化を主な取組に加えてほしい。	・ご指摘を踏まえ、「①いばらき農産物のブランド力強化」において、「外部の専門家の助言を活かしながら、ブランド力強化を支える新品種・新技術の開発や普及の取組を推進します」との記載を追加しました。	総合部会
P J 1 2 茨城国体、東京リビ ック・パ・リリンピック ゆめ実現 P J	P. 152	・主な取組の「障害者スポーツの振興による共生社会の実現」は、5年間での実現が難しいので「共生社会を目指す障害者スポーツの振興」としてはどうか。	・ご指摘のとおり、「共生社会を目指す障害者スポーツの振興」に修正しました。	総合部会

【その他】

区分	関連頁	主な意見	対応	区分
数値目標一覧について	—	・数値目標の一覧を巻末に掲載しないのか。	・ご指摘のとおり、数値目標一覧を164ページ以降に追加しました。	総合部会
広報について	—	・（答申(案)は）よく纏まっていると思う。今後は若者・高齢者など対象に応じて、IT・紙など媒体を上手に使い分けながら、県民により分かりやすく伝える工夫が大切。	・「みんなで創る」の基本理念を実現するためには、まず計画について知っていただくことが重要であることから、広報用リーフレットを作成し、図書館や金融機関などに広く設置いたしますとともに、県ホームページを活用した広報・周知に努めてまいります。 ・加えて、県政出前講座を積極的に実施し、計画や県の事業についての理解を深めていただくとともに、県づくりへの主体的な参画についても呼びかけてまいります。なお、子ども向けの広報資料の作成なども検討してまいります。	審議会
パブリックコメントの周知について	—	・みんなで創った計画となるよう、パブコメに当たっては、多くの意見が寄せられるように周知等に努められたい。	・パブリックコメントの実施に当たりましては、県ホームページにおける周知のほか、県広報誌「ひばり」、ラジオ、NHKデータ放送など様々な媒体を活用し、多くのご意見をいただけるよう呼びかけたところです。 ・応募期間が年末年始であったにもかかわらず、応募人数47人、意見総数80件と多くのご応募をいただいたところで。	審議会